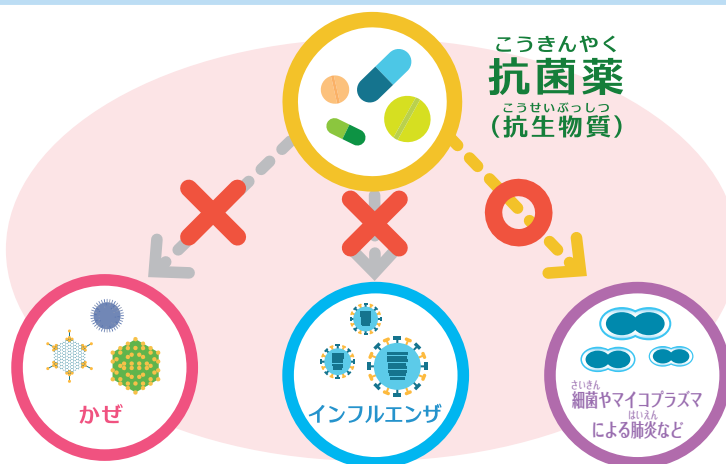


子どもたちの未来のために… この薬、どういうときに 効く薬？

お手持ちの薬、**抗菌薬（抗生物質）**ではありませんか？
抗菌薬は、風邪やインフルエンザには効きません！
抗菌薬を使うかどうかは、医師の指示に従ってください。

出典：国立国際医療研究センター病院
AMR臨床リファレンスセンター



抗菌薬が効く病気

溶連菌による**咽頭扁桃炎**、中等症以上の**急性中耳炎**、**百日咳**、**マイコプラズマ**や**細菌性**が疑われる肺炎、**とびひ**などの皮膚感染症、**尿路感染症**など

抗菌薬が効かない病気

急性上気道炎（いわゆる風邪）、**急性気管支炎**、**手足口病**、**咽頭結膜熱**、**ヘルパンギーナ**や**急性胃腸炎**、**インフルエンザ**などの**ウイルス**による**流行性疾患**



この**薬**、正しく使用しないと **どうなるの？**

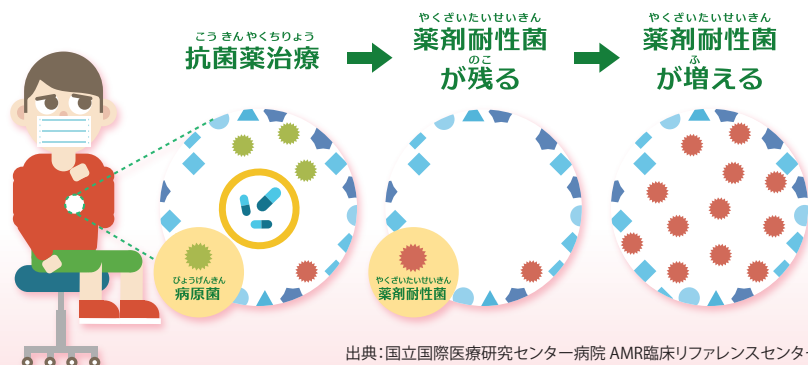


薬剤耐性って何？

薬剤耐性ができてしまいます。



薬剤耐性（やくざいたいせい）とは、病原体である細菌が変化して、抗菌薬が効かなくなる、もしくは、効きにくくなることをいいます。
抗菌薬を正しく飲まないと、体の中で耐性を持った病原菌が増えて、感染症の治療や手術の際に影響を及ぼすことがあるんです！



詳しくは
裏面へ！



出典：国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター

子どもの感染症には特徴がある？

感染症は、体の様々な部位から病原微生物が侵入することで、発熱、咳、鼻汁、嘔吐や下痢などを認める疾患です。子どもたちが罹患する感染症は大きく分けて**ウイルス性**と**細菌性**の2つがありますが、そのほとんどが**ウイルス性感染症**です。

よって、ウイルス性の感染症には無効な抗菌薬を服用しても効果は発揮されず、抗菌薬が効きにくい細菌（耐性菌）が増えてしまい、抗菌薬による治療を難しくします。

耐性菌のために治療がうまくいかなくなる子どもたちを増やさないためにも、ふだんから抗菌薬についての正しい知識を持って上手に使用していくことが大切です！

抗菌薬を上手に使用することとは、必要なときに、十分な量を決められた期間使用することです。

薬剤耐性を防ぐには？

その1

抗菌薬を処方された場合は、医師の指示どおりの回数と日数を守って、最後まで継続して飲みきりましょう。抗菌薬を取っておいたり、別の機会に飲んではいけません。また、他の人にあげたりもらったりはやめましょう。

その2

日頃からの体調管理と予防が大切です！次の3点を心がけましょう。

・正しい手洗い

指先、爪の間、指と指の間、手のシワ等、汚れが残りやすい部分を意識して、せっけんと水でよく洗いましょう。

・咳エチケット

咳やくしゃみのしぶきが飛ばないように、マスクをつけましょう。マスクがないときは、ティッシュで覆うか、袖の内側で口や鼻を覆いましょう。

・ワクチン接種

感染症にはワクチンで予防できるものがあります。ワクチンを接種すると、体に抗体ができ、感染しにくくなったり、感染しても症状が軽くなったりします。



出典：国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター

**医療費は、皆様が納めた保険料や税金で賄われています。
安定した医療保険制度を子どもたちの未来につなげましょう！**



休日・夜間の子どもの急な病気などへの対応に迷ったら、小児救急電話相談窓口
「#8000」または**「087-823-1588」**を利用いただくと、
看護師等が相談に応じ、助言を行います！ 【相談受付時間：毎日午後7時～翌朝8時】